

FUJIEDA ROTARY CLUB
Weekly Bulletin
 事務局：藤枝市青木1-9-16 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040
 例会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-2-48 TEL 054-641-3321



心岳寺の紅葉
 写真提供：鈴木舜光君

第1649回

<ソング> 我等の生業
 <ソングリーダー> 増田 國衛君



2005-2006年度 RIテーマ
超私の奉仕
 カール・ヴィルヘルム・ステンハマー

会長挨拶

鈴木 廣利君

今日の日の出は6時50分、日の入りは16時30分です。太陽の光を浴びている昼間の時間は10時間はありません。正確には9時間と40分です。今回の寒波はユーラシア大陸全体が覆われてヨーロッパも大変寒いそうです。又風も強い日が続いておりますが、風の強い時は星がきれいに見えると云われています。

星が輝くのは星自体がきらめくのではなく地球上の空気の密度の濃い薄いの層によって屈折率が変わると云う事はご存知でしょうか。星の瞬きは一種の光の屈折現象であって大気圏外に出れば星はタダ光っているだけでキラキラしません。

冬は空気が澄んでおり上空の風の強い日は空気が激しく動くので星は瞬きを一層大きくするのです。昔から星が輝く夜の翌日は風が強くなると云われています。

さて今月は家族月間です。当クラブも来週はクリスマス家族例会が企画されておりますが、ロータリーの友12月号横書きの5頁から10頁にわたって「もっと家族が参加する機会を」と題して4人の配偶者から見たロータリーについての記事が掲載されております。

大変参考になりますのでまだお読みでない方は、ぜひ一読願いたいと思います。

又、本日は静岡西RCの沼田カウンセラーとインドネシアからの米山奨学会留学生で静岡県立大のレストウさんの卓話がございます。きっと楽しいお話があると思います。最後になりましたが、

今月はロータリー家族月間ですので来週のクリスマス家族例会にはぜひ奥様方を始め、ご家族で例会出席をお願いして挨拶とさせていただきます。

幹事報告

松葉 隆夫君

- ロータリー財団地域セミナーのハンドブックがガバナー事務所より届いています。
- ロータリークレジットカード入会再度のお願いがガバナー事務所より届いています。
- 静岡西ロータリークラブ30周年記念式典のお礼状が届いています。
- 2004～05年度地区記録誌が届いています。
- 第14回藤枝市長杯争奪ジュニアユースサッカー大会開会式並びにレセプションのご案内が藤枝市サッカー協会より届いています。
- 藤枝子どもと本をつなぐ会通信No25が届いています。
- 麻薬・覚せい剤乱用防止センターより冊子が届いています。

出席報告

後藤 功君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
29 / 41 70.73%	26 / 41 63.41%

(1) 欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

- 飯塚君 ○池ノ谷君 ○酒向君 ○仲田廣君
- 宮崎君 ○村松徳君 浅川君 板倉君
- 桜井富君 鈴木舜君 仲田晃君 望月志君

ビジター

河村 武君（榛南）

スマイルBOX

後藤 功君

●誕生日のお祝いありがとうございます。

増田 國衛君

●妻の誕生日祝いありがとうございます。ボールペンの値札を見て感激していましたので「ロータリーからのお祝いだよ。」と言っておきました。

望月 俊昭君

スマイル累計額 506,000円

委員会報告

米山委員会 委員長 村松 宏一君

<米山記念奨学会寄付のお願い>

寄付金額 10,000円

納入期日 平成17年12月21日(水)

米山奨学生卓話



レストウ・
ワヒュニンシ様
(インドネシア)
静岡県立大学

本日、藤枝ロータリークラブの卓話にご招待いただきまして有難く思います。

日に日に寒くなっておりますが皆さんは風邪などを引いていませんか。私はこのように赤い顔をして、笑顔で元気に毎日を過ごしております。

さて私は四季のなかで冬が最も嫌いな季節でした。というのはインドネシアでは四季はなく雨季と乾季しかありません。1年間の平均温度は27 ぐらいです。ですから冬という寒い季節はありません。また同じように季節の移り変わりもありません。日本の学校でいう衣替えもありませんし、楽しい冬休みや夏休みもありません。旬のものもありません。旬のもので強いて言えば果物ぐらいでしょうか。

なぜ、季節の話をしたかと言いますと、おそらく今年の冬は私にとって日本で過ごす最後の冬

になるかもしれません。そう思うと非常に寂しくなり、冬の良さを感じて愛しく思います。四季って本当に素晴らしいものだとつくづく感じてきました。季節によって、見た風景や味わった食べ物や物事の感じ方などが変わりますし、五感が活性化され、より自然を楽しめると思いました。「四季の歌」のように季節の移り変わりは我々人間の感性を豊かにするものではないでしょうか。その四季のなかで最も感じさせてくれましたのは、物事は必ずしも同じカタチであるとは決して思ってはいけないし、絶対的なものではありません。

季節の移り変わりのように、季節によって適応した処置を取らなければなりません。季節ごとに着る服も異なり、冬に夏のものを着ると当然風邪を引きますので、一工夫で変化に乗り越えられるよう頑張れるものだなと思いました。

今、私は留学生生活6年目に入り、来日当初の頃の自分と今の自分を振り返ると別人までとはいきませんが、やはり自分自身にも変化があったはずではないかと感じています。例えば、ネバネバで臭く、美味しいわけがない納豆、しかし、健康に非常に良いと知って、しかも手ごろの値段で私の貧乏の日々を救ってくれた食品納豆は遂に、私の口の中に入り平気で食べられるようになりました。

以前、私は建前社会であり、遠慮深い日本の社会では、場面によって数多くの日本語の挨拶や決まり文句に驚き、使用に不慣れで、どうして一言言わなければならないか理解できませんでした。しかし、時間がたつに連れそれも慣れて言えるようになりました。

悔しいことには日本人みたいに建前やゴマすりや上手になったねと周りの人に言われてしまったことでした。

日本人はよく誉める民族だなと思いました。外国人はあまり誉められると逆に皮肉られたと思われるかわかりません。しかし、“誉めて育てる”ということわざを知って、自分もいつの間にか誉めてくれないと伸びないと口癖になってしまいました。しかし更に深く考えてみると、本人のためには、時と場合によっては強く指摘することも

育てることだと気づきました。つまり何事にも現在ある金融業者のCMにありますように、バランスが大切だと思います。そして育てることの難しさの向こうには希望があることを確信して前進してゆきたいと思います。

日本の文化は母国インドネシアの文化と異なり、堅苦しくてメンドクサイと思ったことも正直ありました。もっと気楽で自由にいけば良かったのにと思いながら、しかし最近日本の文化に表れる美意識が多少分かるようになって、その中で共感するものがあり、例えば堅苦しい規則は物事を正しくする役割を持っており、物事を抑制する意味で整える環境につながるものだと思います。

さて、話を戻しますが、私が言いたい“絶対的なものはありません”とは時間の流れのなかで、環境ももちろんですが、自分自身も変化しなければなりません。したがって、“変化”というものに逆らってはいけないなと思いました。逆らうよりも、付き合えばいいのではないかなと最近気がきました。人間関係でよく言う付き合いがないと情というものは湧いてこないと同じものだと感じました。

6年近く日本に生活して日本に慣れたため、里帰りした時に育った母国は違って見えて日本のほうが良かったという逆カルチャーショックを受けました。日本に戻ってきたらやはり母国のほうが良かったと思いました。帰国した友達は日本のほうがいいと戻りたいよと良く聞きました。結局、どちらのほうが自分にとって良いか分かりません。自分の感情もその時々で変わるものだなと思いました。その場面によってこんな変わるのであれば、間違いなく絶対的なものはありませんと言っても過言ではないのかと思います。

実は、私は卒業後の進路について非常に悩んでいます。インドネシアに展開することを検討している会社のオファーを頂いて、気持ちよく現在研修をさせてもらっていました。そのため、ある会社からいただいた内定を断りました。ところが、諸事情により展開が未定の期間で延期になりました。“決まりました”と安心した自分は迷子になってしまいました。ありがたく、研修先の会社は非常に面倒見が良い会社で私の今後の就職先

を何か考えていただいています、それば別として私が描いた将来を一瞬台無しになってしまうようなものですのでショックでした。しかし、その決まったことが決まらないことになってしまったことは逆に良いことかもしれませんと、プラス思考に変えていこうと思いました。変化した状況のなかで自分はどうしたいのかを考え、いくつかの選択は自分の前に広がり、逆に、このことはありがたいことだなと思いました。最後になりますが、絶対的なものはありませんと知った自分が適応する姿勢はいかに大切か学びましたので、これからも自分らしさを生かすいつでも想定外のことを楽しく挑める人間になればと思います。



カウンセラー
静岡西RC

沼田 時子様

(担当 / 成瀬)